



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ 週報 No.2

2026.7.8(No.3290)

ロータリーで人生をより充実させよう

第2560地区ガバナー／富山 洋
会 長／小 林 吾 郎
会長エレクト／明田川賢一(クラブ奉仕A)
副 会 長／渡 辺 良 一
幹 事／野 水 靖 之
S A A／渋谷 政道
会 計／早 川 滝 徳
直 前 会 長／柳 取 崇 之
会長ノミニ／成 田 秀 雄(クラブ奉仕B)

例会日／毎週水曜日 12:30～
例会場及び事務局／
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
E-mail: sanjo-rc@cpst.plala.or.jp
https://www.sanjorotary.site

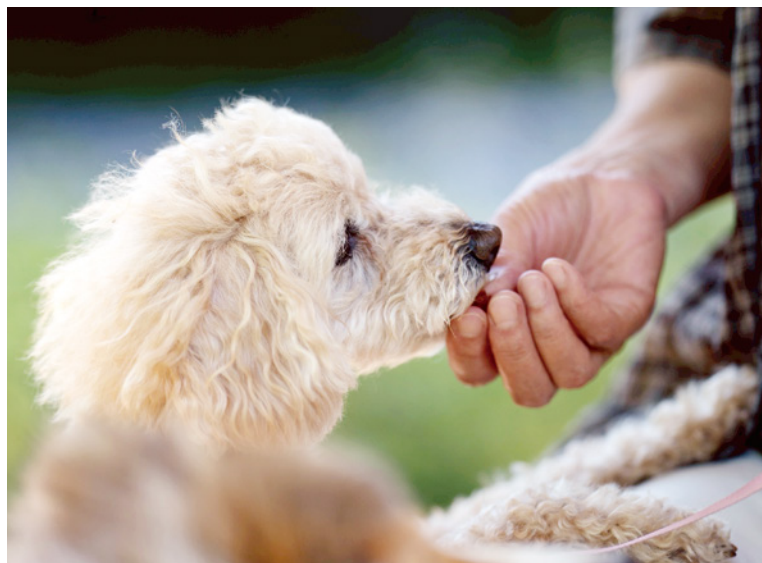
■本日の出席会員数:56名中44名
■先々週出席率:92.73%

【先週のメイクアップ】

[7.2] 三条ローターアクトクラブへ
・高橋俊樹さん、松永一義さん、
・五十嵐博宣さん
[7.4] ローターアクト
第1回会長幹事会(三条)へ
・高橋俊樹さん

**持続可能な
インパクトを
生み出そう**

2026～2027年度 国際ロータリー会長メッセージ



「ご褒美だワン」

会 長 挨拶



小林吾郎 会長

皆さん、こんにちは。いよいよ本格的な暑さになってきました。健康にはくれぐれも注意してお過ごしください。

さて、今年度の会長挨拶では、何回かにわたって日本経済新聞最終面の「私の履歴書」のような話をさせていただこうと思っています。改めて私という人間を知っていただければ嬉しいです。今日はその第一回として、私自身のルーツである、父・小林敬典と我が社・プラスパッケージについて少しお話しさせていただきます。

私が社長を務めるプラスパッケージ、以前は「中央製版」という社名でした。この中央製版を創業したのが、私の父、小林敬典です。

敬典の父、つまり私の祖父は三条市で「小林印刷所」という印刷会社を運営していました。三条印刷さんで印刷を学び、その後創業したようです。その祖父が、敬典がまだ7歳のとき、戦時中のベトナムへの印刷技術指導の途上で旅客船を撃沈され亡くなります。その後は祖母が印刷所の経営に関わったおかげか、敬典は三条高校、日本大学芸術学部写真学科へと進んでいきます。小林印刷所はその後、久住さんという人に乗っ取られたような形になり、その後「希望社」と会社名を変えますが、30年ほど前に倒産したようです。

実は敬典は次男でした。小さい頃は長男が印刷所を継ぐだろ

うと思っていたようで、その後、長男が亡くなり「自分が経営者にならんきゃらか」と悩んだ時期があったようです。大学を卒業後、双葉印刷——現在のトッパン——に就職し、オフセット製版技術をしっかりと学んで、4年後に三条市で製版業として中央製版を創業します。

そして時代とともに、中央製版は印刷、そして紙器（紙パッケージ）加工へと事業を変化させていきました。「製版」という創業時の強みを軸にしながら、顧客のニーズに合わせて柔軟に変化してきました。私自身、市場のニーズと自社の強みに合わせて組織を変化させることの大切さを、会社の歩みから学んできたように思います。

今年度のテーマは「伝統と革新の調和」です。本日の卓話は五十嵐晋三さんをお願いしています。これからの1年間、三条ロータリークラブとはどんなクラブなのか、その歩みをしっかり学びながら、これからどのように変化していくべきかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告



野水靖之 幹事

◎2026年7月のロータリーレートは、1ドル162円です。

◎富山ガバナー事務所より

「ガバナー月信 7月号発行のお知らせ」

◎地区事務所より「訃報」

2017-18年度 地区ガバナーの新保清久様が
6月29日ご逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

ニコニコBOX

小林吾郎 会長

いよいよ暑くなってきましたね。健康に気を付けてがんばりましょう!

関 義実さん

皆様、大変ご無沙汰しております。本日もよろしくお願いいたします。

五十嵐晋三さん

本日卓話をいたします。時々とちるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

荻根澤隆雄さん

本日は第二例会、大先輩の五十嵐晋三様よろしくお願いいたします。

渡辺良一さん

お世話になりました新保パストガバナーのご葬儀に行ってきました。ご冥福をお祈りいたします。

五十嵐晋三さん、卓話楽しみにしております。

松永一義さん

新保清久パストガバナーのご冥福をお祈りいたします。

五十嵐晋三さんの卓話楽しみにしております。

柳取崇之さん

暑さもいよいよ本番、熱中症に注意し、頑張りましょう。

菊池 渉さん

暑くなりました。冷えたビール、枝豆で…この味だけは元気が出ます。

梨本次郎さん

私事ですが、3期9年間務めていた三条観光協会の会長職を退くことになりました。今後の観光協会の発展を影ながら見守っていこうと思います。

嘉瀬一洋さん

梨本さん、三条観光協会の会長として3期9年間のご活躍大変お疲れ様でした。

斎藤弘文さん

昨夜、近藤会員が副会長の県央さんしん会の懇親会に参加し、多くの方と親睦を深めることが出来ました。白倉理事長ありがとうございます。

吉井直樹さん

暑い日がやってきました。皆様体調に気を付けてください。本日、五十嵐様卓話楽しみにしております。

伊藤浩志さん

火山活動で永らく閉鎖されていた浅間山に挑戦してきました。濃霧で後輩2名がやめましようと言うので撤退、万座温泉につかって帰りました。今月末に再挑戦です。

中村和彦さん

都合により早退させていただきます。

中林順一さん、 長谷川正実さん、 船越良則さん、
渋谷政道さん、 成田秀雄さん、 小林卓哉さん、
関川 博さん、 近藤雄介さん、 小越憲泰さん、
早川滝徳さん、 飯塚一樹さん、 白倉徳幸さん、
高橋俊樹さん、 丸山行彦さん、 明田川賢一さん、
石倉政雄さん、 野水靖之さん、 五十嵐博宣さん、
安達俊明さん、 山田富義さん

五十嵐晋三会員、本日は卓話ありがとうございます。
お話し楽しみにしております。

7月8日分	¥39,000
今年度累計	¥97,000



「卓話」

五十嵐晋三 会員

“人に言われるうちが花だぞ”と背を押されて入会しました。

会場は大町の信金本店の二階でした。入会初日、会場に行きました。

た。

初代会長の金子左武郎さんがドアの前で出迎えてくださいました。“いらっしやい。お待ちしておりました。さあ、どうぞお入りください。”と案内をしてくださいました。私は体が硬くなりました。会場に入りました。三条の名士の方々がずらりとおられました。やはり、私の来る所ではなかったと思いました。それが入会初日の思いでした。

数年前公式訪問の時、高田の大谷光夫ガバナーでした。ガバナーの話の初めに入会日に高田の名士がずらりと並んでおられ、とんでもない所に来てしまったと話されました。私の入会初日と同じことを思われた大谷ガバナーに親しみを感じました。

あまり目立たない部類に入る私です。自分はよくわかります。いつの間にか47年の在籍になり、こんなに長く在籍していること、また、こんなに長生きするとは考えていませんでした。親しくしていた仲間が少なくなり、淋しい思いをしている近頃です。

これから今日お話することに入ります。

○“中道を行くこと、偏った見方をしないこと、普通でよし” 三条ロータリーの基本です。

○ロータリー日本100年史に別冊100人のロータリアンが選ばれています。その中に藤田説量さんが入っています。2560地区で一人です。三条クラブに大きな宝を与えてくださいました。三条クラブの誇りであります。

先輩から聞いたことです。新年初例会は、田中佐造さん、鈴木宗資さんお二人の謡(うたい)そして仕舞(しまい)で始まったそうです。さぞかし奥ゆかしい気品のある楽しい会であつただろうと思いました。礼儀がありそして楽しみがあることだと思います。

○入会者オリエンテーションがありました。場所は松木屋さんでした。講師(大先輩)は斎藤権八さん、長谷川一雄さん、田巻実さんでした。新入会員は上木六治さん、石橋育於さんと私の3人でした。先輩の方々は丁度私達の父親と同じくらいの年齢の方々でした。子どもに話すようにロータリーのことを教えてもらいました。出席をすることが第一である、そのうちに段々ロータリーがわかってくる。

鈴木さんは四国に出かけられた時、2時間タクシーを飛ばして例会に出席された話をされました。

宴会に入りました。鈴木さんが“松木屋さん芸者を呼びなさい”と言われ、松木屋さんはびっくりされ、オリエンテーションで芸者を呼んだことはありませんが“いいから呼びなさい”鈴木さんの一言でした。硬くなっている私達をやわらげる鈴木さんの心遣いであつたと思います。

○ある例会の時、会場に入りましたら各テーブルに“もりそば”が並んでいました。どーしたんだろうと思いました。昼食料金を節約して社会奉仕に回すということでした。皆さんはいつもと変わらず食べていました。少しでも奉仕出来ることに意義を感じていたと思いました。その頃のロータリーの一面でした。

○ロータリーソングは終わりますと食前体操がありました。軽いものでした。しばらくしてリーダーが変わりました。軽い体操がだんだん軽くなってきました。リーダーが張り切っていたんです。ついにクレームが付き、食前体操はなくなりました。私は今でもロータリーソングが終わるとすぐ食事に入ります。何か忘れ物をしたような気持ちになることがあります。

○家庭会合の話に移ります。今はホテルで1回か2回で終了します。前は委員会ごとに家庭で行いました。会議が終わりますと奥さん方の用意された料理で宴会が始まります。奥さん方は大変でした。しかし、それなりに楽しく親しみもしました。いいことでした。

藤田さんのところで言う時、会場が広いので20名くらい集まってやりました。藤田さんはいつも大変な気遣いをされ、珍しいものを色々と用意してくださいました。ある先輩は極楽寺様の家庭会合は珍しいものをいただけ楽しいと嬉しそうに話しをしたものでした。

○卓話の話に移ります。今は原稿を提出します。前はカセットテープが頼りでした。巻き戻しを何度も繰り返して作ります。大変時間の掛かる作業でした。聞いている時は何も疑問に感じませんが、文章に直していくと接続が合わなくなるところが出てきます。困ったものでした。週報の係は大変でした。

○今はテーブルの上にお茶のペットボトルがあります。前は各テーブルに茶道具がありました。早くテーブルに着いた者がお茶を入れました。大体新しい会員がその係をしました。灰皿があり、灰皿が無くなり飴に変わりました。今はペットボトルだけです。

○姉妹クラブのことに移ります。現在は新竹城中クラブと親しい間柄が長く続いております。“こんなに長く続いていることは珍しいことだね”と亡くなられた中條バスターガバナーが話しておられました。新竹城中クラブと成立する前に台湾に姉妹クラブを作る話があつたのです。昭和63、4年頃、台湾の台中より少し南に鹿港クラブがあります。そのクラブとの話で鈴木宗資さん、渡辺惣吉さん、松川星吾さん、大先輩と行きました。鹿港は昔大変栄えた所だったそうです。バスで回ったのです。

が、未だ砂利道、裸電球の電柱が目立ちました。夕食はメンバーの奥さん方の料理で美味しい食事でした。宿泊は台中のホテルでした。姉妹クラブの話は中止になりました。

台中、台北のホテルに宿泊の時のことです。松川星吾さんのところへ現地の人達が何人も訪ねて来ました。懐かしそうに親しく話をしておられたことを思い出します。松川さんは戦時中、台湾で軍医をされていた方だったのです。現地の人達が訪ねてくることは松川さんは人望のある立派な軍医でいられたのだと思いました。

○メーキャップの話をします。出張先で名鉄グランドホテルでメーキャップをしました。丁度ボジョレ解禁日でした。うまいボジョレがふるまわれました。やわらかなソテーも美味しかったです。名古屋フィルハーモニーのファーストバイオリニストの演奏もありました。いい時にメーキャップしたと思いました。ふっと思いました。昼アルコールを飲んで帰りはどーするのかなと思いました。私の思い過ごしでした。運転手付きの黒い高級車がずらりと並び、次々とメンバーは乗車して帰って行きました。都会ロータリーの場面を見ました。

○現在、SAAは役員・理事を務めています。昔は会場整備、進行役で役員・理事ではありませんでした。

○ニコニコボックスに移ります。前はなかなか集まりませんでした。10以上あると今日は多かったねと話したものでした。いつも10前後だったと思います。今と全く違います。何かのきっかけで急に多く集まるようになりました。テーブルの上に用紙が置いてあります。入れないと何か後ろめたい感じを持つこともあります。前と比べると大変な変わりようです。

○前は群馬と新潟で一つの地区256地区でした。一年おきに地区大会が回ってきます。私も高崎・前橋・桐生の大会に参加しました。藤田説量さんが256地区のガバナーになりました。地区大会は三条で行いました。使い走りを一生懸命しました。群馬のメンバーは新潟に来ると“越乃寒梅”“南蛮海老”を求めます。なかなか思うように集まらず、係のメンバーは大変でした。大会は本番に強い三条です。大成功でした。当時のガバナーは二つの県のクラブを回りました。夜はだいたい宴会があります。労力と気力がなければなかなか務まらぬ役目だったと思いました。

今まで思いついた話は終わります。

ロータリーには三つの義務があります。例会に出席すること・会費を納入すること・ロータリーの友を読むこと、この三つです。ロータリーの友にスピーチの欄があります。各地区で行われた講演が載っています。私は読んで感動したスピーチは別にしおりをしました。感動した中の一つで、“生き方の鑑(かがみ)としての歴史”占部賢志氏(福岡の高校の先生)のスピーチです。前にも話しましたが、新しいメンバーもいられます。もう一度話をいたします。昭和60年当時イラン、イラク戦争の真っ只中でした。長引く戦争にしびれを切らしたイラクのサダムフセインは“我々は今からイランの首都テヘランを総攻撃する”と声明します。民間機を含め、イラン空域の航行する航空機は全て撃墜する、タイムリミットは二日間。現地日本人を脱出させる方法は三つ、一つはイランが自国の航空機で外国人を脱出させる、一つはスイス・西ドイツの空席に乗せてもらう、一つは自国で助けるという





ことです。日本航空に救援機を出す指示をします。日本航空は準備が出来ました。しかしどうしてもタイムリミットに間に合わすことは不可能でした。これと同時に大使館を通じて各国に救援要請をします。空港には日本人215人が集まっています。タイムリミットは迫っています。すると2機の航空機が着陸したのです。トルコが我が国の要請に応じてくれたのです。215人は2機に分乗し危機一髪イランを後にすることが出来ました。1時間20分前でした。

ではなぜトルコが身を挺して日本人を救援したのかその理由は何なのか、実は日本とトルコの間に結ばれた友好の史実があるのです。

今から115年前、明治23年に日本の離島の島民が結束して台風の中沈没した船からトルコ人を救ったことがあります。トルコが航空機を飛ばして日本人を救ったのは115年前の恩返しであったのです。明治23年は名実ともに近代国家としてスタートを切った年です。その7月にトルコ使節団が来日し、明治天皇から手厚いもてなしを受けます。そして、9月帰国の途についたのですが、和歌山県の熊ノ灘に達した夜の9時頃、台風の直撃を受け、船は岩に叩きつけられ、木っ端みじんになりました。かろうじて命あった人が灯台の灯りに向かいます。灯台の宿直員が見つかり、島の村長に知らせ、島民をあげて精一杯の救助活動を行います。今まで見た事もない外国人だったかもしれませんが、恐怖に立ちすくんでもおかしくない状況にあったにもかかわらず、救援したのです。島民の非常食のニワトリもつぶしてスープを作り飲ませます。こうした応急処置を受け救出された69人はようやく連絡のついた神戸の大病院に移り、治療を受け、誰一人亡くなりませんでした。そして日本の船でこの人

達を祖国へ帰したのです。大島の村民が示したオールマインド世界に開かれた心、このことでトルコの人々は生涯忘れられない感動を覚えたのです。

だからこそイランに残された日本人を救おうと、ここで恩返しをしたのです。実はこれが歴史なのです。日本の国の歴史というのは日本の枠だけでなく、グローバルの観点から先人の歩みを見つめていく時代が今の私達にとって大切なのではないかと思います。

そして紀伊大島の島民はトルコ人だけではなく、イランに残された日本人を救ったと言えるのです。こういうオールマインドというのが日本の精神なのです。

○平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災で最も痛手を受けたのは子ども達でした。ポーランドはその年から夏休みに被災児を招いて激励をしてくれています。またポーランドは大震災の翌日から救援活動も始めてくれました。そこには大正時代に日本人とポーランド人達との深いつながりが見えてきます。ポーランドは愛国者が多く、何度も独立運動をします。

ドイツ・オーストリア・ロシアの間にあり、独立が出来ませんでした。独立運動をしますと摘発され遠くの収容所に送られました。シベリアに多くの人が収容されました。

1918年11月に第一次世界大戦が終わりドイツは負けました。ロシアは革命が起きます。オーストリアは当時力を弱めていました。その間にポーランドはようやく独立をしました。抑留されている人達を帰さなければなりません。シベリアに多く収容者がいます。帰る手段はシベリア鉄道しかありません。ロシアは利用を拒否します。ポーランドは世界に訴えかけます。

しかし、どの国も新しいソ連との関係で助けませんでした。せめて子ども達だけでもとポーランドの若者は救

済委員会を作ります。リーダーはアンナ・ピエルケビッチという女性でした。困り果てた彼女は中国赤十字社に頼りましたが断られます。彼女は両親から伝え聞いていた、日本は子どもを大切にする国である話を思い出します。彼女は日本へ来ます。その女性からの嘆願を受けた日本ですが、ポーランドとは国交はありません。断るのが普通です。日本はたった16日で受ける閣議決定をしました。日本赤十字社が現地へ向かうことになりました。現地にはソ連赤軍がいます。大変危険です。たまたま日本軍がシベリア出兵のために待機中だったのです。

そこで日本軍が私達がやりましようとしてシベリア原野に入り、小さな子ども達を助けウラジオストクに戻ってきました。二年間続け、765人の子ども達を助け、一人も死なせませんでした。ポーランドへ順次横浜と大阪から返したのです。世話になった看護婦さんやお医者さん、近所の人達から離れなかったそうです。自分達の両親のようになっていたのです。ポーランドは日本の対応に感謝します。しかしお礼するものは何もありません。代わりに大量の感謝の手紙が届きました。その中に「ポーランド国民もまた高尚な国民であるが故、我々はいつまでも恩を忘れない国民であることを日本人に告げたい」とあります。それから80年近い歳月が過ぎています。阪神淡路大震災が起きた時、ポーランドは復興支援に協力し、その夏に最も痛手を受けた子ども達を招いたのです。

その時、日本に助けられた人達は約10人ほどが招かれた子ども達のお別れパーティーに各地から訪ねてきたそうです。その時子ども達にバラの花を渡し、通訳を通じてなぜ自分達が生きているのか偉大な日本人の功績を語って子ども達を激励したと言います。

平成14年、天皇皇后両陛下が東ヨーロッパ諸国へ歴訪されポーランドを訪問されました。この時、3人の老人がどうしてもお会いしたいということで対面が実現しました。3人の人達は正の日本人に助けられた当時の孤児の方です。日本で助けられた時、大正天皇の後、貞明皇后から見舞いをいただき抱いて励ましてくださったのをかすかに、そのぬくもりを美智子皇后に求め感謝の言葉を伝える喜びに打ち震えながら美智子皇后の手をずっと握りしめていたのです。

これが生き方の鑑(かがみ)としての歴史です。本物の歴史に触れますと、今いろいろと問題視されている青少年も必ずよみがえってくると信じます。私達は生き方の鑑となる本物の歴史をもっと聞いて見つめるべきでないか、そう申し上げ今日の話とします。

私の感動したスピーチの一つです。ロータリーの友を大切にしてください。

長時間の話をしました。すぐに思い出せないと思います。次の週報を読まれ、一つでも二つでも心に残るものがあればうれしいです。

ご清聴ありがとうございました。

※この講演は平成16年のものです。



次週例会 7月22日 休会(祝日の週)

次々週例会 7月29日 夜例会「納涼例会」
18:30 ~ 於 越前屋ホテル



皆様の写真で
本週報の表紙を
飾って
みませんか？

今期の三条ロータリークラブ週報では、皆様より表紙の写真を募集いたします。日常の風景から旅先のスナップ・渾身のワンカットなど、会員様の素敵な写真をご提供ください。画像タイトル(キャプション)を入れてメールでお送りください。宛先は小林卓哉会員宛「taku.kobayashi@bb.wakwak.com」までお願いいたします。※投稿者名を非掲載希望の方は、メール送信時にその旨ご記載ください。※応募者多数の場合は掲載されない場合もございます。ご容赦願います。